

# 【小施策評価(平成29年度実績評価)】

## 小施策の総合計画における位置付け

基本目標	3	人を育み未来につなぐまちづくり	小施策 主管課等	経済企画課
施策	19	社会を担う人材の育成・支援	評価 責任者	小原 勝博 内線 3710
小施策	19-1	若い世代の活躍支援	評価 シート 作成者	高橋 久幸 内線 3711

## 小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
<p>・若者を取り巻く労働環境は、非正規雇用などの不安定な雇用、求職者側と求人側のニーズが一致しないミスマッチのほか、親元を離れ地元以外に就職先を求める若者が多いことなどの課題がある。また、教育や職業訓練などを受けない無業者となっている、いわゆるニートと呼ばれる若者が存在するなどの課題がある。このため、在学中からキャリア教育などによる就労観の育成や地場企業を知る機会を設けるなど、若者が社会で活躍するためのさまざまな支援を行う必要がある。</p> <p>・女性の労働力率は、子育て期に当たる30歳代で低下するものの、就業希望者は多く、非常に大きな潜在力となっている一方で、さまざまな課題があることから、就業や社会参加など個々に支援が必要となっている。</p>	若い世代に対して、就業や職場定着などに係る情報提供や各種支援を行い、就学等から就業へ円滑に移行できる環境を整える。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(対象をどのようにしたいのか)
市民	社会で活躍できる。

## 小施策の成果指標の達成状況・評価(平成29年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標	単位	目指す方向	成果点	成果の要因分析	問題点
地域若者サポートステーションの支援を受けて就職を決定した人数	人	↑	<p>・目標には及ばないものの、ある一定の人数が就職することができた。</p> <p>・各関係機関や病院との連携が図られており、利用者自体は増加傾向にある。</p>	<p>・臨床心理士によるジョブスキルトレーニングセミナーの指導を受けるなどして、実際の職場への恐怖感をやわげることができた。</p> <p>・ボランティア体験の実施が、将来の就職に向けての方向性を見つけることに役立っている。</p>	<p>・「もりおか若者サポートステーション」の支援を必要とする若年無業者の全容把握が困難である。</p>
当初値 (H25) 116	H31目標値 140	H36目標値 140			
ジョブカフェいわての利用者数	人	↑	<p>・利用者数が目標のおよそ1.5倍となっている。</p>	<p>・県事業との連携により、きめ細やかなカウンセリング等が実施できている。</p>	<p>・特になし</p>
当初値 (H25) 29,529	H31目標値 30,000	H36目標値 30,000			
盛岡公共職業安定所管内の就職を希望する高校3年生のうち県内就職を希望する者の割合	%	↑	<p>・年々遞減傾向にあるものの、その減少割合が小さくなってきている。(H27とH28を比較すると2.3%減、H28とH29を比較すると1.2%減。1%ほど減少率は低減されている。)</p> <p>・県内就職を希望する者の割合が下がり続けている。</p>	<p>・地元定着を支援する各種の事業において、県内企業の紹介や研修を実施するとともに、企業側の採用方法に関する意識の変革を促す研修の実施により、県内企業の魅力が徐々に高校生等にも伝わってきている。</p>	<p>・県外企業の求人意欲が非常に高まっている。</p> <p>・新規学卒者の初任給について、東京を100とした場合、岩手は84.7であり、待遇面での格差が顕著である。(平成29年賃金構造基本統計調査結果による。)ことから、県外を希望するものが多い。</p> <p>・高校生及びその保護者が地元企業を十分に知らないことから、県内企業が就職先として選ばれない。</p>
当初値 (H27) 67.3	H31目標値 70.0	H36目標値 70.0			

※平成28年度に新しく設定した指標

## 今後の方向性(平成30年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…30年度着手済または着手予定 ☆…31年度以降の着手を検討
<p>★ 今後も利用者維持に向けて周知・PRを図る。</p>	
<p>★ 今後も利用者維持に向けて周知・PRを図る。</p>	
<p>★ 高校生の地元就職希望を高めるため、地元企業の周知や地元で働き生活することの魅力の発信を早い段階から行う。</p>	